

ホセ・ラファエル・モネオ (2002)

建物はロサンゼルス・ダウンタウンのフリーウェイ101号沿いにあり、前面広場や駐車場を含む大聖堂。アラバスター石でつくられた開口部から入り込む光が荘厳的な空間をつくりだし、ロサンゼルスの新名所として注目を集めるマッシブな建物である。

—「ぼくは眼を閉じ、耳を澄ませ地球の引力を唯一一つの絆として天空を通過しつづけているスプートニクの末裔たちのことを思った。彼らはさえぎるもののない宇宙の暗闇の中でふとめぐり会い、すれ違い、そして永遠に別れていくのだ。

交わす言葉もなく、結ぶ約束もなく。」(「スプートニクの恋人」)

ここは神との約束を確認する空間であるし、言葉を交わす場でもある。

神との対話の中で、アラバスター石を透過した光がどう見えるのかを想像してみる。天空の遥か先、水星の公転軌道のそのまた向こう。燃えたぎる太陽から長い時を介して降りそそぐ光は一直線に落ちてくる。祈りの瞬間、説教の刹那、そういう時、ぼくたちはスプートニクの末裔になっているのかもしれない。

唯一の絆に全てを委ね、言葉を交わし、約束を結び、今もこうして生を送っている。一定量の生をたぐり寄せ、そのまま後ろへ送ることができる。そこに光をあててくれるものこそ宗教の本質であるし、自分をかえりみる場は、やはり必要だと感じた。神は光。

